日本工業大学通信
発行所
日本工業大学
広報課
埼玉県南埼玉郡宮代町
郵便番号345
電話04803（4）4111

行事予定

12・10　推薦入学出願締切
12・21～23　補講（掲示）
12・21～1・9　冬季休暇
1・10～2・15　一般入試出願期間
1・27　休講
1・28～2・10　後期末試験
2・19～21　一般入学試験

私学の自主性と建学精神

学長　藤岡通夫

近ごろ、私学の自主性ということが問題とされ、時折、新聞紙上にも書かれている。私学が多年にわたって熱望していた私学助成法が、やっと国会を通って成立したが、その内容について、私学側は必ずしも満足していない。むしろ不満の方が多いところから、この問題が出てきていると思われる。

その一番大きな理由は、この助成法では私学の自主性が失われるというのである。つまり、当分の間、私学の定員増や学科増は、特別の場合を除き、認めないという規制が、私学の自主性を大いに損う、ということに問題があるようだが、わたくしはこの説に若干の疑問を感じている。

なるほど、私学助成法のこの一項は、私学を規制して、その自主性を犯す恐れがあることは確かである。しかし、私学の自主性とは定員増や学科増の問題だけではないはずで、もっと根本的な重要な問題がある。それは、建学の精神にもとづいた私学の特色を、どのように出すかということで、この点について、助成法は別になんの規制もしていない。だから、私学の自主性を主張するならば、私学はまず、建学の精神をどのように生かして、私学の特色を出しているかが、もっとも重視されなければならないはずだが、最近の私学には、このような自主性が極めて薄くなっている、と考えざるを得ない。

いずれの私学も、設立の当初は建学の精神を高く掲げて、特色ある教育を行ってきたと思われるが創立者も歿し、歴史を経るに従って、教師の顔ぶれも変って、設立の趣旨を忘れた画一的な教育が行われているようである。

もっとも、この画一化には、文部省で定めている法律も関係があったようだが、私学の中には、理事長さえ教授会の選挙で決めているような大学が出るに至っては、私学の特色だとか、自主性などといっても、助成法だけをとがめる資格はないと言わなければなるまい。

◇　◇　◇

本学は創立十年目を迎えたが、その歴史はまだ浅く、創立関係者もまだ健在であり、建学の趣旨もきわめて明確である。本学の目的は、実験・実習等の体験的学習に重点をおいた工業高校卒業程度の技術的能力を備えた人材を集め、それらの延長において、さらに高度の技術教育を行い、工学理論を現場の技術に直結し得る能力をもつ、科学技術者を育成することにある。最近、一般の新制大学の工学部では、サイエンスに重点がおかれ、実地に役立つ実技的な教育が軽視されがちだが、本学の大きな使命は創設の目的に沿って、他の工学部とは異なった、実際に役に立つ高度の技術教育を行うことにある。従って、教授陣の選定にも、工場などの現場で経験の豊かな学者を迎えることに、腐心されているのが、ひとつの特色といえる。

◇　◇　◇

しかし、建学の精神に沿った教育とひと口に言っても、具体的にそれをどう行うかという段となると、決して簡単ではない。工学の教育はひとつの体系ができているので、それから大きくはずれるわけにもいかないから、どうしても工業高校で習ったことと重複する面が出てくる。それがあまり多いと、学生は勉学の意欲を失ってしまう。カリキュラムを組む上に重要なことは、新鮮味を出して、学生の勉強意欲を誘い出すことに工夫がなければならない。それと、近年の技術革新の時代には、境界領域の分野が発達しており、従来の機械、電気、建築といった既成の学科の勉強では、社会の要求には応じられない面が多く出てきている。

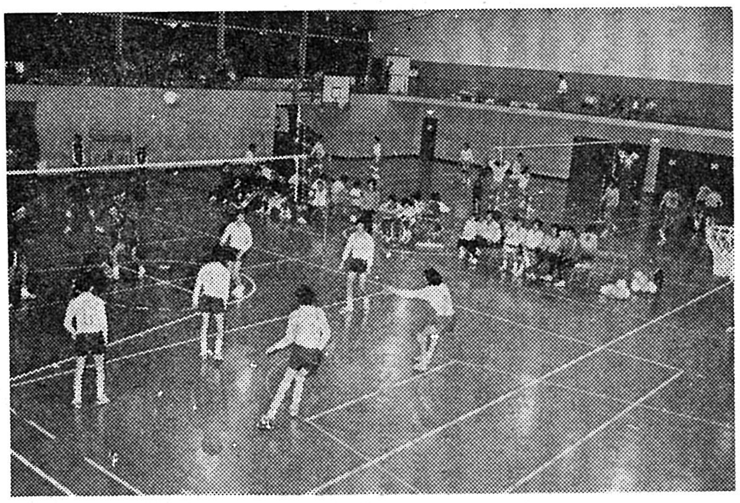
最近設けられたシステム工学科というのは、このような要求を満たしたい考えでできたが、これは単にシステム工学科だけの問題でなく、この考え方はもっと拡げられて行くべきであろう。そして、本学のように工業高校にて一応専門の学習を終えた学生には、一般の工学部ではできない分野の開拓が可能なはずである。

◇　◇　◇

しかし、このような新しい試みは、教師側にとっても未経験なことであり、しっかりと軌道に乗せるためには、不断の努力と、進歩的な考えが必要である。期待されていた新構想の筑波大学も、教師の保守性のために、その進路はなかなか険しいと聞くが、さらに、近く発足する技術科学大学も、構想においては優れているが、実施面においては大いなる困難が伴うであろうことが予想される。社会における技術革新はどんどん進んでいるのに、大学の教育はこの進歩に応じきれず、古い殻の中に閉じこもっても、それを突き破るのがなかなかできにくいのが実状であろう。

◇　◇　◇

本学は、このように特別な理念を掲げて発足した大学であり、この点では現在では日本唯一の工業大学といえるので、道は険しいが不断の努力によって、特色のある大学を造りあげたい、と考えている。今回の学費改訂にもこの趣旨のことを書いておいたが、理想を実現しようとすれば、やはり金が問題となる。しかし、現在の経済情勢では、他に資金を求めることは困難であるし、国庫補助も期待どおり進まないので、なかなか思うようには行かない。残るところは、教職員と学生の気力によって、建学の理想を実現し、後輩に受け継いでもらうことが肝要である。施設や金がいくらあっても、やる気がなければ教育も研究も成果があがらないことを十分に考えるべきである。



関東地区工業高校を招いて
柔道・バレーボール大会
開かれる

スポーツの秋にふさわしく、去る十月三十一日、関東地区の工業系高等学校を招いて、本学体育館でバレーボール大会、同道場で柔道大会が行われた。この大会は、本学が工業高等学校の卒業生を主体に受け入れていることから、工高とのより緊密な交流を持とうとして、関係クラブの関係者と部員が積極的に各工高に呼びかけ、開催されたもの。創立十年の本学にとって、スポーツを通じて、工高との直接的な交流は意義深い。当日午前十時すぎ、それぞれの会場で開会式が行われ、熱気にあふれた試合が展開された。時期から、各高校の選手は、一・二年生が主体で、新鮮味のある顔ぶれとなった。今回の招待試合が成功裏に終ったことから、今後とも継続して行きたい、との見方が関係者の間では圧倒的だった。

バレーボール

【参加校】 埼玉・大宮工　千葉・清水　茨城・高萩工　栃木・栃木工　東京・本所工　神奈川・鶴見工　埼玉・埼玉栄　東京・東京工　栃木・今市工

試合経過（リーグ戦）

大宮工 2（15-5 15-2）0 清水
東京工 2（15-4 15-7 5-15）1 高萩工
栃木工 2（15-5 15-2）0 清水
鶴見工 2（15-11 15-10 13-15）1 東京工
埼玉栄 2（15-11 15-10 11-15）1 今市工
鶴見工 2（15-3 15-3 6-15）1 高萩工
埼玉栄 2（15-7 15-10）0 本所工
栃木工 2（15-12 15-9）0 大宮工
本所工 2（16-4 15-14）0 今市工
鶴見工 2（15-11 15-7）0 埼玉栄
栃木工 2（15-10 15-13）0 埼玉栄
鶴見工 2（15-11 15-12 8-15）1 栃木工

順位　①鶴見工②栃木工③埼玉栄

柔道

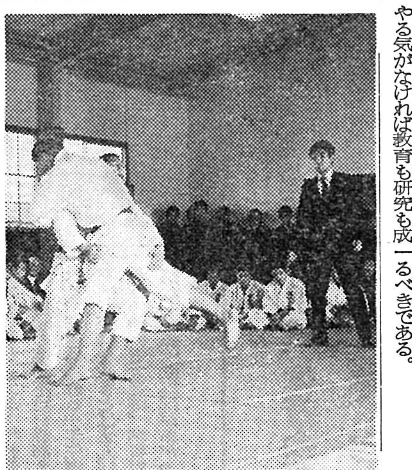
【参加校】 栃木・足利工大附属　栃木・宇都宮工　埼玉・行田工　千葉・清水　東京・安田学園　埼玉・越生　東京・東京工　埼玉・浦和工　東京・昭和第一工　国学院栃木（特別参加）

試合経過

予選リーグ
宇都宮工 3-1 足利工大
東京工 2-0 宇都宮工
東京工 2-0 足利工大
浦和工 5-0 清水
国学院 4-0 昭和一工
安田学園 5-0 行田工
越生 5-0 行田工
安田学園 3-1 越生

決勝トーナメント
安田学園 5-0 国学院
浦和工 4-1 東京工
安田学園 4-0 浦和工

順位　①安田学園②浦和工③東京工・国学院栃木



後援会
全国各地に支部を結成

本学後援会（会長・小渕岩太郎氏）では、従来から実施してきた「地域別会員懇談会」などを通して、大学当局・父兄間の円滑な意志疎通をはかってきたわけだが、さらに、後援会活動を充実させるために、全国各地に「支部」を設ける計画が、現在、進められている。支部は、その地区に在住する後援会員および卒業生父兄で構成され、その地に出向する教職員が学生生活の全般にわたる情報を提供したり、会員からの相談に応じるほか、支部会員相互の親睦をはかりながら、後援会本部が行う後援会事業の援助をして行くことを目的としている。現在、すでに、新潟県支部、群馬県支部、近畿・東海支部、栃木県支部が結成されており年内には北奥羽と茨城県にそれぞれ支部がおかれる予定。

施設計画
来春、物理実験棟・談話室が

本学の施設計画の一環である「物理実験棟」と、学生や教職員の憩の場となる「談話室」が、来春四月に完成する予定で、去る九月十七日に地鎮祭が行われた。

「物理実験棟」RC造、二階建。九二五・七五平方㍍。

「談話室」RC造、平屋建。一四六・三八平方㍍。

昭和52年度
入学試験について

昭和五十二年度学生募集要項がすでに決定しており、推薦入学願書が十一月一日から受付を開始している。推薦入学は指定校制を採用しており、全国工業高等学校長協会に加盟している高校が対象で私立大学付属高校は除外される。現役で、成績概評がB以上の者が推薦されるが、被推薦者の在籍する学科が志望する学科と同一か、または準じていなければならない。推薦人員は、志望学科に対して、それと同一か、または準じる学科からそれぞれ二名づつである。

一般入学試験は、二月十九日に筆答が行われる。筆答は英語、数学、工業科目について基礎的事項を問うもの。配点比率は英語、数学各一に対して工業科目が二。翌日、翌々日に面接を行うが、面接日時は出願の際受験票に明記される。今回の試験は大学だけで行われる。

学費の改訂について

来年度の入学金と学費が改訂され、昭和五十二年度以降の入学者については、二年次以降在学中はスライド制の適用により、毎年定められる学費を納入することになる。スライド制が適用されるのは授業料と実験研究費で、前者は前年度の人事院による一般職国家公務員の給与に関する勧告によって示された国家公務員の給与の改訂率に、同じく定期昇給のアップ率分を加算した変動率による。後者は前年度総理府発表の6月より過去一ヶ年における消費者物価指数（全国総合）の変動率による。

☆ 昭和52年度 日本工業大学 募集要項 ☆

機械工学科 200名　建築学科 200名
電気工学科 200名　システム工学科 80名

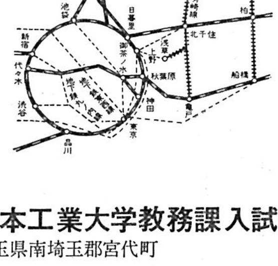
〔一般入学試験〕

出願期間	1月10日～2月15日…郵送は2月15日必着
試験日	2月19日　筆答…数学、英語、工業科目 午前11時開始 2月20日、21日面接…日時は指定
合格発表	2月28日…合格者のみに通知
入学手続期間	合格通知を受けた日から3月5日まで
試験場	本学工学部（埼玉県宮代町）

機械工学科、建築学科の受験生は、面接の際、卒業設計製図を持参する。システム工学科は機械系コース、電気系コース、建築系コースに分れるので、出願時に入学願書の指定欄の希望コースにマルを記す。

〔推薦入学試験〕

出願期間	11月1日～12月10日
合格発表	12月20日　合格者に通知
入学手続期間	合格通知を受けた日から 第1回目　12月25日（入学金） 第2回目　1月31日まで



日本工業大学教務課入試係
埼玉県南埼玉郡宮代町
TEL. 04803（4）4111㈹
東武線杉戸駅下車

電気接点に関するホルムセミナーに出席して

電気工学科助教授　高橋篤夫

昨年十月シカゴで開かれた第二十一回ホルムセミナーに出席し、研究発表を行う機会を得たのでここではその様子、およびオハイオ州立大学、ベル電話研究所の訪問時の印象等を述べる。

電気接点に関するホルムセミナーはイリノイ工科大学の主催で毎年秋に開かれている。アメリカ中心の会議であるが他国からの発表も多く、昨年は日本から二件、他にカナダ、西ドイツ、スウェーデン、ポーランド等からの発表があった。このセミナーは国際会議よりも高く評価され、セミナーでの発表論文から選ばれた論文がアメリカ電気電子学会の論文誌に転載されることになっており、私が発表した論文も今年三月号の同論文誌に掲載された。

セミナーは十月十四日から十六日までシカゴのピックコングレスホテルで開かれたが、私は十三日に同ホテルに到着した。同日夜は顔合せのパーティーがホテル内で開かれ、それに出席した私は早速アメリカ人の気さくさに驚ろかされた。セミナーはイリノイ工科大学のアーミントン教授が全体の議長となって運営されたが、パーティーの会場に着くや否や、このアーミントン教授らの握手攻めにあった。私は海外へ出るのは初めてであり、出国前の多忙さのために発表の準備だけはともかく、英会話の練習も不充分のまま出発したため、対応にいささかとまどうほどであった。日本からやって来たことへの歓迎の意味もあったと思われるが、閉鎖的な日本の学会との差を感じさせられた。

翌日から始まったセミナーでは開会式に続いて第四回ホルム科学技術功績賞の授与式が行われた。今回の受賞者は、日本人としては初めてである名城大学の真野国夫教授であった。ここで一言断わっておくが、ホルムというのは電気接点の科学を確立した研究者の名であり、セミナーの名称もこれにちなんだものである。日本人として最初の受賞者の授与式に立ち会えたことは偶然でもあるが嬉しいことであった。

私の発表は十五日午後だった。英語での発表は初めてであり、少々の準備ではやはり不安が残ったが、あとは心臓で押し通すことに覚悟を決め発表にのぞんだ。講演自体はともかく質疑応答が問題であり、質問の意味が理解できるかが心配であったが、自分の発表に対する質問だけは意外に聞きとることができ、やや自信を持つことができた。

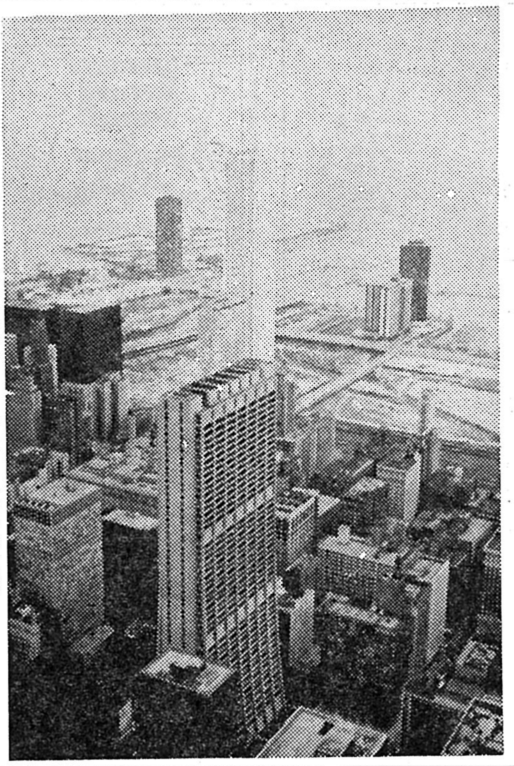
三日間のセミナーを通じて印象に残るのはアメリカ人のタフさと熱心さである。三日間の日程は早朝から夜九時ごろまでにわたり、質疑応答も非常に活発であった。日本では、質疑応答というと例えば実験条件などの割合簡単な質問が多い傾向があるが、彼らの質問はかなり本質的なことが多く、その内容も厳しいという印象を受けた。

かくしてセミナーも終りその後各地を訪れたが、ここではコロンバス滞在中のオハイオ州立大学とベル電話研究所の訪問について簡単に述べる。コロンバスはシカゴから飛行機で約一時間である。ここでは、電気通信大学の鈴木務教授（本学講師）から御紹介頂いた東芝の阿部さんの案内を受けることができ、大いに心強かった。

阿部さんはオハイオ州立大学大学院修士課程で勉強されており、大学内部をよく案内して下さった。市の中心部にある六七五エーカーの広大なキャンパスには多くの施設が配置されており、誠にうらやましいような環境であった。主として大学院の研究室、図書館電気科学研究所などを見学した。電気科学研究所は鈴木先生がおられた所であり、先生の御紹介で内部を詳しく見学することができた。ここではレーザー、アンテナディジタルシステム等を研究しており、私には専門外であったが、同行日本人の解説で興味深く見学することができた。

次にコロンバス市郊外のベル電話研究所を訪問した。セミナーで会った気さくなグレイ博士の案内で、各種の実験装置、電子顕微鏡表面分析装置等を見学したが、その豊富さはさすがと思わせるものであった。問題はこの見学の後であった。日本では一応見終るとそこで「はいさよなら」となるのが普通であるが、アメリカ人は非常に実利的であり、そのような見学では無意味だというわけで専門分野に関する討論を要求する。そこで黒板を使いながら四苦八苦の討論となったわけであるがよい経験になったと思う。

最後にロスアンゼルスからホノルルまでの飛行機で知り合い、ホノルル滞在中にも大変お世話になった大阪の昌子さんのことにふれておきたい。昌子さんはプラント設計等で度々海外に出られるとのことで、いろいろの経験談を聞かせて頂いたが、そのなかで、日本人は島国根性を捨てるためにも、言葉の上手下手などを気にせずに人間的なふれ合いを基本にしてどんどん海外に出るべきであると言われていた。私も全く同感で、学生諸君も卒業後海外に出る機会を持つ人が多いと思われるが、そのような時には物おじすることなく機会を生かすよう希望してペンを置くことにする。



シアーズタワー（一、三五三フィート）よりミシガン湖を望む

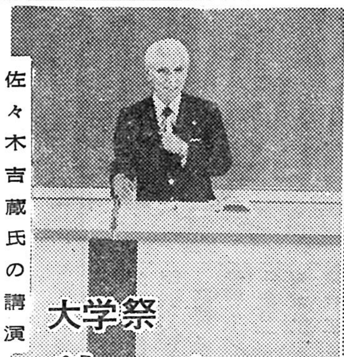
就職、いまがたけなわ

大学・企業間の〝紳士協定〟により、十一月一日から開始された就職試験は、いまが盛りといったところ。昨年は上場企業の約三分の一が大卒の採用をストップするなど、卒業生にとっては厳しかった就職戦線だったが、最近の新聞などの報道によると、いくぶん明るさを取り戻しつつある。とはいっても、高度成長期にみられた大量採用にはほど遠いし、今後も期待できないだろう。

全体的にみれば、大企業は別としても、中小企業はあいかわらず〝人〟を求めていることは事実。昨年・大企業が採用を控えたこともあって、就職希望者が大挙して中小企業に流れたが、受け入れる企業にしてみれば、こういった現象を必ずしも歓迎しない傾向があるらしい。なぜならば、企業が求める〝人〟とは「仕事に意欲をもって熱心に取り組む人」で、そういう人こそが、〝期待される人間像〟である。だから、「大企業がだめなら中小企業へ」といった、安直な考え方は、当然、通用しない。

十一月二十日現在の求人数は昨年同期よりも少し伸びているが、全国の大卒がこの短期決戦に挑むわけだから、就職に対する優柔不断な態度は、自ら墓穴を掘るもとになる。積極果敢なアタックを望みたい。

大学祭　秋のキャンパスだより　体育祭



佐々木吉蔵氏の講演

模範演武

秋のビッグ・イベント、大学祭（若杉祭）と体育祭が行われた。大学祭（十月二十九日～三十一日）では、フォーク界の新星「いるか」、「ルパンⅢ」のフォーク・コンサートや、東京五輪の名スターター、佐々木吉蔵氏（日本体育大学教授）の講演などが〝祭り〟に花をそえた。

一方、体育祭は十一月十三日冷たい北風の悪天候下で、一年生を中心に、体育会がアシストするかたちで行われた。日頃の運動不足を解消すべく、若さあふれる一年生諸君は、寒さを吹きとばさんばかりの勢いで大健闘。学科対抗は「電気」に軍配があがった。

後援会文庫の紹介

後援会文庫とは、本学後援会からの寄附金によって出きたもの。本年度分は十月末日現在で、四百七十四点購入。

全集・シリーズ類

鳥居龍蔵全集、倉橋由美子全作品（全8）　貝塚茂樹著作集（全10）　モーツァルト叢書（全8）　ボードレール全集（全4）　島木健作全集（全15）　三田村鳶魚全集（全27）　小林英夫著作集（全10）　ラシーヌ戯曲全集（全2）　日本名所図会全集（全14）　広文庫（全20）　歴史科学（全18）　理工学講座（全29）　講座現代技術と教育（全8）　日本民俗学講座（全5）　物理工学実験（全7）　永遠の音楽家（全16）　海の百科（全20）　図説探検の世界史（全18）　ヒマラヤ―人と辺境（全7）　日本の仏画（全10）　浮世絵大系（全17）　日本都市生活史料集成（全10）　大阪菊屋町宗旨人別帳（全7）　未来への遺産（全5）　日本古代文化の探究（全10）　人間革命（全5）　現代日本のエッセイ（全16）

自然科学

生命現象を探る　日本自然誌の成立　新物理の散歩道　時間とは何か　実験に生きる　科学の社会史　量子力学史　数のエッセイ　もりやはやし　オーロラ　科学のライフサイクル　近代進化思想史　発想のモザイク　創造性への対話　和蘭事始　中国の技術創造　日本野生動物記　パンダ　X線天文学（以上自然選書）

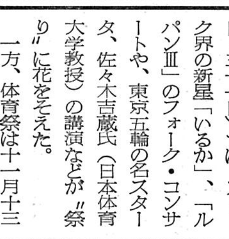
その他

臼井吉見著＝田螺のつぶやき　加茂儀一著＝榎本武揚　星野慎一著＝ゲーテと鴎外　梅原猛著＝水底の歌（上・下）鯖田豊之著＝文明の条件　吉田精一著＝現代日本文学史　同著＝世界の中の日本　那波鳳翔著＝吟詠の心・続吟詠の心　宮川松男著＝図解プレス加工辞典　廣恵章利・本吉正信共著＝プラスチック物性入門　新保正樹著＝高分子材料　奈良本辰也著＝京都故事物語　麻生磯次著＝芭蕉物語　F・フォーサイス著＝ジャッカルの日、戦争の犬たち、オデッサ・ファイル　柏木英彦著＝中世の春　福永武彦著＝草の花　ラティス著＝単位の辞典　オーテス・ケーリ著＝よこ糸のない日本　大阪自治センター編＝恐怖の都市公害　松井やより著＝現代を問い直す旅　串田孫一著＝夢の中の風景　吉田建一　一養斎芳瀧＝浪花百景　エドガー・スノー著＝今日の中国―もう一つの世界　中野好夫著＝文学・人間・社会

人事異動

新任

◎機械工学科主任教授
石崎敬三教授



退職

中馬悟朗助教授（数学）

伊藤甫（建築学科前教授）

去る十一月四日午前二時逝去された。先生は東京工業大学工業教員養成所教授を経て、昭和四十二年四月、本学建築学科教授として赴任・同学科主任教授を務めるなど、本学創立時からご活躍されていたが、ご病気のため本年三月に任意退職されている。ここにつつしんで哀悼の意を表します。

秋季、体育会がんばる

野球、空手、バスケットが好成績

戦績

◎硬式野球

東京新大学リーグ（一部）

日本工大	8―4	日大農獣医
日本工大	4―1	創価大
東京学芸大	12―7	日本工大
日本工大	12―5	都立大
	（八回コールド）	
日本工大	5―1	高千穂商大

【順位】①日本工大4勝1敗（一部昇格後、初優勝）②高千穂商大 ③創価大

最優秀投手　吉沢兼一君（建二＝長野・飯田長姫）（防）一・七一

打撃　②福山善文君（電三＝愛媛・三豊工）・五三四③額井政史君（機一＝沖縄・北部工）・四八〇

明治神宮大会関東大会
（10月28日・駒沢球場）

（神奈川五大学）神奈川大	2	1	1	0	0	0	0	0	3	7
日本工大	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
（東京新大学）										

この大会は、関東地区四リーグの優勝校でトーナメント戦。結果は首都大学リーグの東海大が明治神宮大会に出場。

◎空手道

東日本大学空手道選手権大会

一回戦

日本工大	2対1	東京理科大

二回戦

国士舘大	2対1	日本工大

一回戦に勝ったため、全日本大学選手権大会へ初出場。

全日本大学空手道選手権大会
（万博記念公園お祭り広場）

一回戦

日本工大	3対2	高野山大

二回戦

日本工大	2対1	広島大

三回戦

近畿大	4対1	日本工大

結果、本学は百二十二参加校中三十二位に入る。個人戦では、副将・古川亮三君（電三＝青森・弘前電波工）が四回戦まで勝ち進みベスト十六位に入る。

◎バスケット

関東大学リーグ（四B）

日本工大	55―45	東京農工大
日本工大	50―45	工学院大
千葉工大	66―39	日本工大
武蔵工大	49―46	日本工大
日本工大	72―63	相模工大
日本工大	79―53	明星大
日本工大、	64―52	日本歯科大

結果、三校が五勝二敗となったが、ゴール・アベレージで本学が優勝。

全日本学生バスケット（予選）

（二B優勝校）国士舘大	102―57	（四B優勝校）日本工大

◎バレーボール

関東大学リーグ（七部）

玉川大	3―2	日本工大
埼玉大	3―2	日本工大
日本工大	3―1	東京経大
日本工大	3―1	学習院大
千葉大	3―1	日本工大

○○○○○○。

◎サッカー

埼玉大学サッカーリーグ

日本工大	6―4	国際商科大
日本工大	5―1	防衛医科大
日本工大	0―0	独協大
埼玉大	10―0	日本工大
日本工大	3―3	城西大

結果、三勝一敗二分で三位。

◎ゴルフ

関東大学対抗・Fブロック四位

◎射撃

関東学生射撃大会・四部で四位

第5回　日本工業大学
欧州理工学研修旅行募集

期間：昭和52年２月26日（土）～３月17日（木）《20日間》
訪問（国）都市名　（イギリス）ロンドン　（フランス）パリ　（オランダ）アムステルダム　（西ドイツ）ケルン，フランクフルト，ハイデルベルク（スイス）チューリッヒ　（イタリア）ミラノ，フローレンス，ローマ
■問合せ・申込先　学生課　担当：鈴木　☎04803（4）4111
＊詳しい資料は学生課にあります。